

山陰仏社会報



第15号

山陰教区仏教壮年会連盟会報・第15号

【編集・発行】山陰教区仏教壮年会連盟事務局
〒690-0002 松江市大正町443-1(本願寺山陰教堂内)
電話(0852)21-4747 FAX(0852)27-8351

第二十二回全国仏教壮年東北大会に参加して

妙壽寺 門徒推進員 榎野博巳



九月二日(土)仙台市のトークネットホール(市民会館)で開催された全国仏教壮年東北大会に、妙壽寺から住職様を初め十五名で参加しました。

大会は、ご門主様をお迎えして、会場いっぱい約千三百余名の同朋が全国から集まり、「ともに命輝く朋友の笑顔」を大会テーマに盛大に

行われました。

山陰教区の仏教壮年会連盟旗も壇上に代表の方が持つて行かれ、飾られました。

また、仏教壮年会結成五十周年以上の大会に参加している単位仏徒に感謝状が渡されることになり、妙壽寺の内田会長も感謝状をもらわれました。(妙壽寺仏教壮年会は、昭和三十五年二月に発足しており、今年で五十七年です)

ご門主様のご挨拶では、東日本大震災の七回忌にあたるこの年に、当大会が東北で開催されることの意義についても触れていただきました。

記念講演では、東日本大震災に実際に遭遇された宮城組専修寺住職の足利一之師より「たのむより先に」との演題で、震災の状況や被災者支援活動で得た朋友からの心温まる実体験を聞かせていただきました。

私達は、大会前日、被災地を直接視察、見学をしていましたので、より一層、講話の内容を身にしみて感じることができました。

次回は三年後、備後教区で大会が開催されるそうです。皆さん誘い合わせ大会に参加しましょう。



教区理事長に就任して

教区理事長 村上 勉

総会において伝統ある教区の理事長に就任しました、出雲組の村上でございます、もとより浅才非学ではありますが、よろしくお願い致します。

全国的に少子高齢化が加速的に進んでおり、教区内の人口は百三十万人を切っております、中でも石見地域におきましては、過疎高齢化が極端に進んでおり門徒の減少により寺の維持運営に支障をきたす状況となっており、壮年会の会員も減少し退会及び休会となっております。

現在八十九の単位及び組加入で運営をおこなっております、全国では約二千五百の団体加入で運営されており、運動方

針の中で拡充が提起され、次年度以降取り組みが強化されます。

教区としましては、壮年会活動は行われていて、未加入団体の把握に努め加入に向けて取り組みをして行く考えでございます。

さらに、現在加入して頂いている団体につきましては、多くの会員の皆様が山陰教堂に足を運んで頂くよう運動を進めてまいります。

以上 私の思い及び考え方を申しあげましたので、会員の皆様のご協力及びご支援を賜りますようお願いし挨拶と致します。

教区仏壯総会・研修会を終えて

鳥取因幡組願正寺門徒 房安 薫

今年度(平成二十九年)の山陰教区仏壯連盟総会研修会が、六月十七日開催された。例年より少し遅れた開催となったが、諸事情を考えやむをえない事と思つた。

午前十時より開会行事があり総会が始められた。今年度より新しく就任された高橋格昭会長(教務所長)を迎えての総会となった。議題の中では厳しい意見・発言もあったが、新理事長も決まり、新年度が始まった。

午後は大分から藤井邦磨師をお迎えしての研修会で、その「テーマ」を見たとき、どの様な事なのか、どんなお話をされるのか多少の不安と期待をもつておききしていた。

高卒後、県外の会社に勤めていた私は、二十八歳のとき、同社の鳥取工場に転勤のため帰郷し、故郷での生活を始めた。私の家では古くからお寺とのご縁が有り、何かのおりには、声かけがあれば出掛けていき、仏壯活動にも自然に参加していた。家庭内にお仏壇の有る生活も、特別な思いも無く、浄土真宗の家なら当然みたいな思いで生活していた日々のお給仕は出来ていますか・その時々のお莊嚴は良いですかとのお話しにも、仏前で手を合わせることも、家ではそうしていたから程の考えだったと

思う。

お寺(願正寺)での連続研修を受け、組の連続研修も終了し、中央研修も終了して、今までの思い、"あたりまえ"、"当然"は間違っていたと考えた事を思い出した。私の人生とは、家にお内仏が有るとは、成程と思う所や、厳しいご指摘だと思える所、心しておかねばと拝聴していた。

現在でも、会社勤をしている私にとって、声を大にして言えるような活動もできていません、世情に追われ忙しい毎日を送っています。しかし多くの人に声かけするのも、同朋として呼びかけするのも「今でしょう」とのお話し、その時々の方座に誘い、研修会の案内をし、まず私から実践して行く事が大切と思つた。自分が何とか成らねば、自分で何とかせねばと言う思いも、聴聞を繰り返すうち、そうでしたかと得心出来て「報恩謝徳の生活」が出来る様に成るのではないかと思います。

藤井先生のお話しは私にとつて、「これからはげめ・怠りなく努めよ」の指摘であり厳しくも有り難い、ご催促であったような思いで拝聴いたしました。

合掌

ブロック研修会報告

鳥取ブロック仏壮研修会に参加して

鳥取伯耆組 勝福寺 石原 弘

平成二十九年山陰教区仏壮連盟鳥取ブロック研修会が、暑さ真つ盛りの八月二十日(日)鳥取伯耆組香寶寺において県内各地より、鳥取ブロック九ヶ寺の仏壮会員が参加して、盛大に開催されました。開会式の後山陰教区仏壮連盟会長高橋格昭会長の挨拶につづき、参加寺仏壮紹介等なごやかに進行致しました。

今回の講師は、鳥取伯耆組 香寶寺 前任職 上杉正之師に、「佛壮活動は誰のため」というテーマで、講演と問題提起を頂きました。昼食休憩後、四つの分散会では各寺仏壮での活動や、現状での問題点、今後の仏壮の在り方等各寺の取り組みがわかり今後の参考になる分散会でありました。

「慈悲行」するお寺は地域に輝き続ける

石見ブロック研修会報告

大田東組 仏教壮年會會長 下 迫 紀 弘

研修会の主題は「お寺が消える」問題提起者は、地元二人。松浦英篤さん(真浄寺住職)の「お寺の悪口を」と、青木正三さん(組「仏壮」副会長)の「門徒によるお寺おこし」です。

それに問題提起の仕方は、お寺の伝統になった、一方的な「知識伝達型」はやめて、ワークショップ(作業場)つまり、「参加体験型グループ学習」。実はこの仕方を取ったのは、参加者(五十二名の僧俗)が「お寺が消える」原因を「ひとごと」にせず、「自分ごと」にして追究してもらったためだったのです。

ところで、「お寺が消える」原因を「ワークショップ」した結果、「任職がお寺の主になり、お寺は門徒のためのものとの考えが薄くなった」任職は高いところに立たないで、もつと門徒視線を大事に

してほしい」「任職とコミュニケーションができない」と任職の姿勢に門徒の本音が多く寄せられたのです。

これらの本音の中に、「お寺が輝きを失わず存続できる」解答がある、とぼくは思います。なお、「輝くお寺」とは、人びとが世の中で生きるためよりどころにするお寺です。

ぼくら「仏壮」の肝心要、親鸞さんの「本願念仏の教え」は、関わりの中で生きる人びとの苦悩や悲しみを救済すること「アマミダさんの「慈悲行」に参加することが目当てです。

だから、早い話その解答は、人びとの苦悩や悲しみに冷淡になったお寺を、「慈悲行」するお寺へと「仏壮」が中核になって変えることなんです。

「出雲ブロック研修会」報告

専心寺 仏教壮年會會長 難波 一男

平成二十九年山陰教区仏壮連盟出雲ブロック研修会が平成二十九年十二月十七日(日)に三万屋町文化体育館アスパルにて開催されました。

ご講師は出雲南組善福寺ご住職 羅裕章師、「人のねうち」というテーマで講演をいただきました。

出雲ブロック内五組への呼びかけ、松

江組、出雲組、神門組、出雲南組、飯南組から二十三カ寺より六十八名の参加がありました。

ご講師の羅先生は島根県で教員の資格を取り、教師生活を行う上での様々な経験を通し講演をされた。

時代の移り変わりによって教師と生徒とのかわり方が変化してきており、

教員にとつてとても教育が難しい時代だと話された。

最近では教師が生徒を叱ることが問題視されることもあり、教師が生徒に手をあげたならば「体罰」としてとりあげられ、問題を起こした生徒を叱ることすらできない時代である。

そのような時代の移り変わりの中で教師生活を送り、さまざまな生徒や保護者とかかわった経験を通し、「人のねうち」とは、財産や所得、職業や肩書、性格や家柄などで決まるわけではなく、損

得関係なく他人を支え、他人に愛され、尊敬され、心の底から「ありがとございます」と言える人なのであると話された。

「仏法は、いそがしい世間の仕事をさしおいて聞かねばならぬ。それなのに、あなたは、ひまができたら聞こうと思っではないか。それはあさはかなことである。仏法のうえからいえば、老少不定の身であるから、明日があるとは思ってはならない」

(蓮如上人御一代記聞書)

「御院さんのお寺」から、「おらがお寺」にー

山陰教区鳥取伯爵組
香宝寺仏教壮年会
新川裕二

平成三十年二月十七日(土)〜十八日(日)、西本願寺・伝道院を会場に、全国・北海道から鹿児島まで四十五名の参加者のもと開催された。

今回のテーマは、本山が、重点を置いて「子ども・若者ご縁づくり」の視点で仏教はどうあるべきかという視点で研修が行われたように感じた。

特に、心に残ったことを、まとめます。

1 御講師さんのお話の中で、印象に残ったこと

- ・ 仏教は何をすればよいか? まさに、仏教綱領がすべきことを示している。

- 【自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、ともにお念仏申す・朋友の輪を広げ、心豊かに生きる社会の実現を目指す】

- ・ 住職と門徒のつながりがカギ!
「御院のお寺」でなく、「おらがお寺」に!

2 話し合い法座・パネルディスカッションから

各仏教での悩みと取り組まれていた活動と成果も聞かせていただいた。まとめは。

- ① お寺の護寺が大切
- ② お寺に来るきっかけ作り
- ③ 子ども時代からお寺や仏さんの参拝する。↓ 大人が手本を示す。
- ④ 「壮年会が活発なところ」は、お

徳心寺壮和会の紹介

松江組(徳心寺仏教)
嘉本 祐一

徳心寺では仏教のことを壮和会と呼んでいます。読んで字のごとく会員五十五名が和気あいあいと活動しています。御正忌、報恩講、永代経の御勤めに加え、壮和会総会の際には研修会を開催し、ご院家様より仏法の教えをわかりやすくお伝えいただいています。近年ではパウポイントと映像を駆使して「正信偈」を私たちに解説していただいています。

夏には子どもたちに仏法の教えに触れてもらう機会をつくることを目的に子供会を開催しています。その際には「そうめん流し」も行います。私たち壮和会では竹の切り出しや竹を組んだりする準備作業などのお手伝いをしています。

今年六月には松江組の仏教婦人会連盟大会が徳心寺で開催される予定ですが、掃除、駐車場誘導整理、配席、写真撮影、後片付けなど、裏

- ⑤ 楽しいお寺にする。まとめ
- 今回、研修に参加させていただき、

方のお手伝いもする予定です。

お盆が過ぎるころには、納涼懇親会を開催し、ご院家様も参加され、お互いの近況を分かち合います。近年は大山の麓標高二百メートルの高さにあるビアガーデンで開催しています。麦芽百パーセントの本格地ビール「大山Gビール」と気圧も低いおかげで、会話は弾み舞い上がります。

また、グランドゴルフを愛好する壮和会会員有志が徳友会というグループをつくり、二、三カ月毎に一回グランドゴルフ大会を開催しますが、優勝される人は大体決まっています。優勝される人は大体決まっています。20〜30人の参加者のみならず、年々一回は市内の他の仏教会のみならず、市内真宗寺院親善ゴルフ大会を開催し、友好を深めています。



思ったことは、① 仏教・お寺全体のテーマをつくる。↓ 目指す方向・目標が見える。② 仏教はじめ。組織の自主的なうごきを作っていくことが大切ではないかと。良い機会を与えていただき、感謝します。

編集後記

「壮創」第一五回発行にあたり、ご報筆をいただきました方々にお礼申し上げます。今年(二〇一八年(平成三十年))来年の四月には天皇陛下が退位され、新天皇が即位され新しい年号と成る予定です。山陰教区仏社会報創も今年で一五回目を迎えますが、仏教壮年会の歴史をたどれば一九六〇年代迄振り返ります。その当時門信徒会運動が始まったのがきっかけに成ったと言われています。一九七五年(昭和五十年)浄土真宗本願寺派全国仏教壮年会規約が公布されて、本願寺派全国仏教壮年会が誕生、今年で四三年目を迎えています。その二年後全教区において仏教壮年会が結成されています。当時は六十歳迄だったと思いましたが、一九九五年に六五歳に引き上げられ、二〇〇八年に年齢制限は無く現在に至っています。

仏教壮年会発足以来半世紀が経ちますが、全国でお寺の存続も仏教壮年会の存続も、難しい時代が到来しています。その中で連続研修が始まり、門徒推進員(門推の会)が結成され、お寺と門徒間に大きく係わってきています。

今後の組織の拡大・組織の充実・御同朋の社会を目指す実践運動を強力に進めると共に仏教壮年会が元気であつてこそ、お寺と門信徒の存続に大きく係わっているものと確信しています。そして仏教壮年会で有ればこそ、出来る事が有る筈です。お寺の為ではなく、自分自身の為にも多くの方々と関わる事が将来に繋がって行くものと思います。共にお念仏申し上げ、元氣な仏教壮年会を目指しましょう。合掌

鳥取因幡組 浄徳寺仏教 小畑厚